

法政大学工学部経営工学科
若山ゼミ 2000 年度
アルバム

撮影：若山ゼミ生

デザイン：筒井真理

ファイル作成：若山邦紘

若山ゼミは昭和44年に始まります。この年は小金井キャンパスにも学生運動が吹き荒れた年です。工学部闘争委員会と称する団体が出来たのです。3年ほどは続いていました。

その度に、ロックアウトもありましたし、教授会も学外でやらざるを得ないこともありました。

工学部長との団交も講堂でありました。私は議長団（学生と教員とで構成）の一員でした。工学部とは関係の無い他所の学生なども押しかけて、議長団に物を投げて威嚇する行為もありました。品のよいのはティッシュを丸めて投げてきました。でも、気持ち悪いです。かじりかけのリンゴを投げつけられました。それをハッシと受けとめ、投げたやつの眉間に投げ返そうと振りかぶったのですが、床に叩きつけてやりました。

この武勇談は経営工学科40年史に、前田先生によって書かれています。後に、前田先生曰く「水原事件になるかと思いましたが」と。

ゼミ室には過去の卒業生が作ったアルバムがあります。何十年もの間、スクラップ・ブックに写真を貼って、いろいろなコメントを学生達を書いたのです。

時代はIT時代です。写真も電子化されファイルの形式をとるようになりました。2000年度の諸君はかわいいアルバムに思い出を編集してくれました。一冊しかありません。

そこで、これをpdfファイルにして、記念に誰でもが保存しておくことが出来るようにしてみました。

プリントして余白にコメントを付け加えてください。

2004.3.27

若山邦紘

若さとは

サミュエル・ウルマン

若さとは人生のある時期のことではなく、心のあり方のことだ。

若くあるためには、強い意志力と、優れた構想力と、激しい情熱が必要であり、小心さを圧倒する勇氣と、易きにつこうとする心を叱咤する冒険への希求がなければならない。

人は歳月を重ねたから老いるのではない。理想を失うときに老いるのである。歳月は皮膚に皺を刻むが、情熱の消滅は魂に皺を刻む。心配、疑い、自己不信、恐れ、絶望——これらのものこそ、成長しようとする精神の息の根を止めてしまう元凶である。

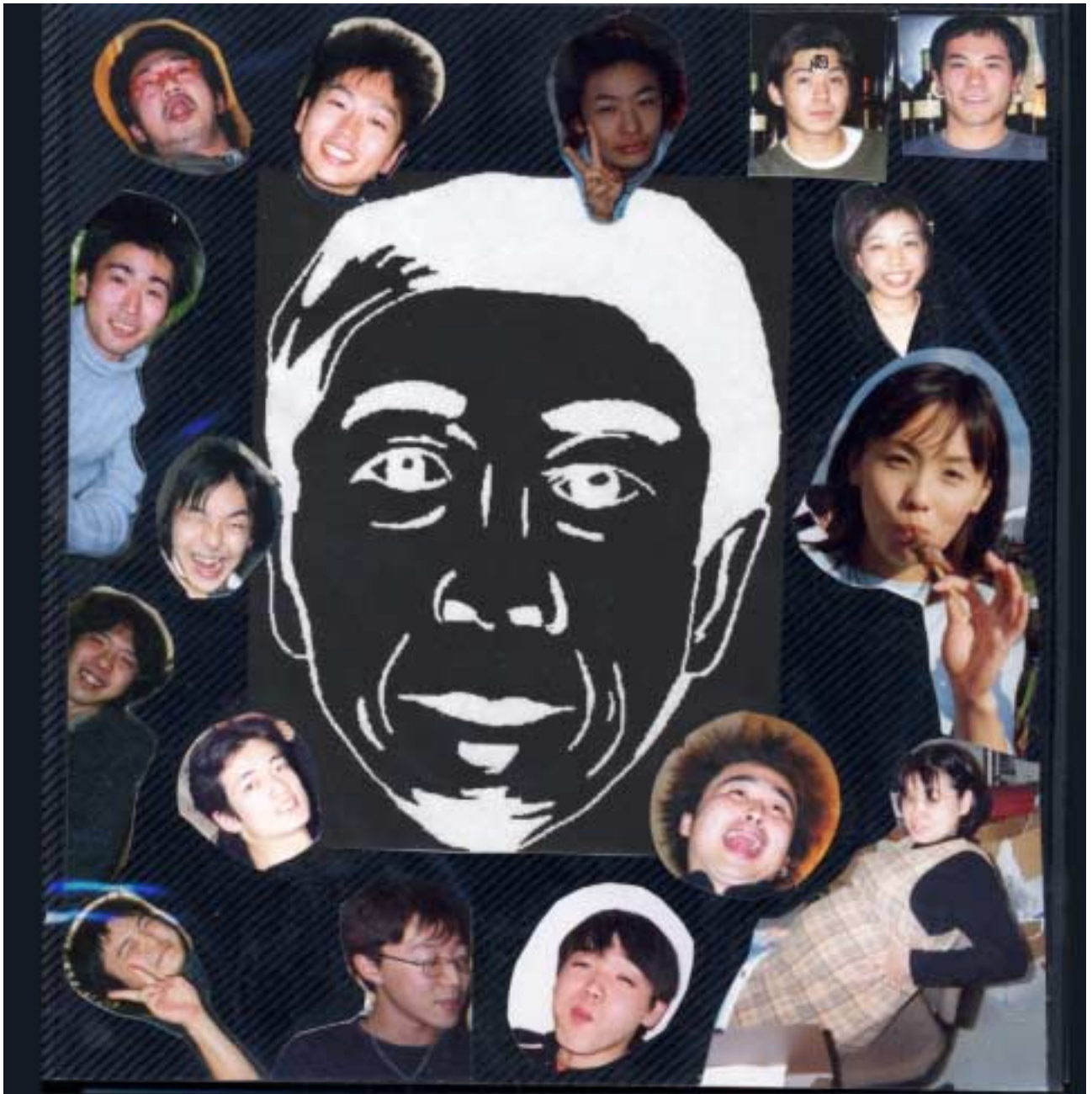
七十歳になろうと十六歳であろうと、人間の心の中には、驚異に対する憧憬や、星や星のようにきらめく事象や思想に対する驚きや、不屈の闘志や、来るべきものに対する子供のような好奇心や、人生の喜びおよび勝負を求める気持ちが存在するはずなのだ。

人はその信念に比例して若くあり、疑いに比例して老いる。自信や希望に比例して若くあり、恐れや絶望に比例して老いる。

大地や人間や神から、美しさ、喜び、勇氣、崇高さ、力などを感じる事ができるかぎり、その人は若いのだ。

すべての夢を失い、心の芯が悲観という雪、皮肉という氷に覆われるとき、その人は真に老いるのだ。そのような人は、神の哀れみを乞うしかない。

サミュエル・ウルマン（1840—1924）は、フランスのアルザス地方に生まれ、後にアメリカに移住し、本職は八十歳の誕生日に記念出版した八十歳の歳月の著みにてに収められたもの。マッカーサー元帥の座右の銘として、執務室に掲げられていたということが有名な一文である。





古川 公一
「アフリカにおける砂漠化の数理モデルの作成」



松尾 俊彦
「インターネット広告の今後の展望について」

田村 勇可・佐藤 一和

「線形計画によるJリーグチームの本拠地の最適配置問題」





住 健太・深澤 和良・
「青梅市における救急車および救急ヘリコプターに
よる救命効率向上のための（仮）」





森川 俊平・岸 和宏
「山形し話による三交替劇ナース・ステジューリング」



南谷 洋輔・石井 祐雄・田中 敏朗
「IDEA の都道府県における開発評価への適用」





中村 美智子
〔長男：聖天【マサタカ】〕
〔多基目における経済発注方式の概要〕





高橋 徹・桑田 健司
「四国における人口集中・過疎化現象の要因分析」

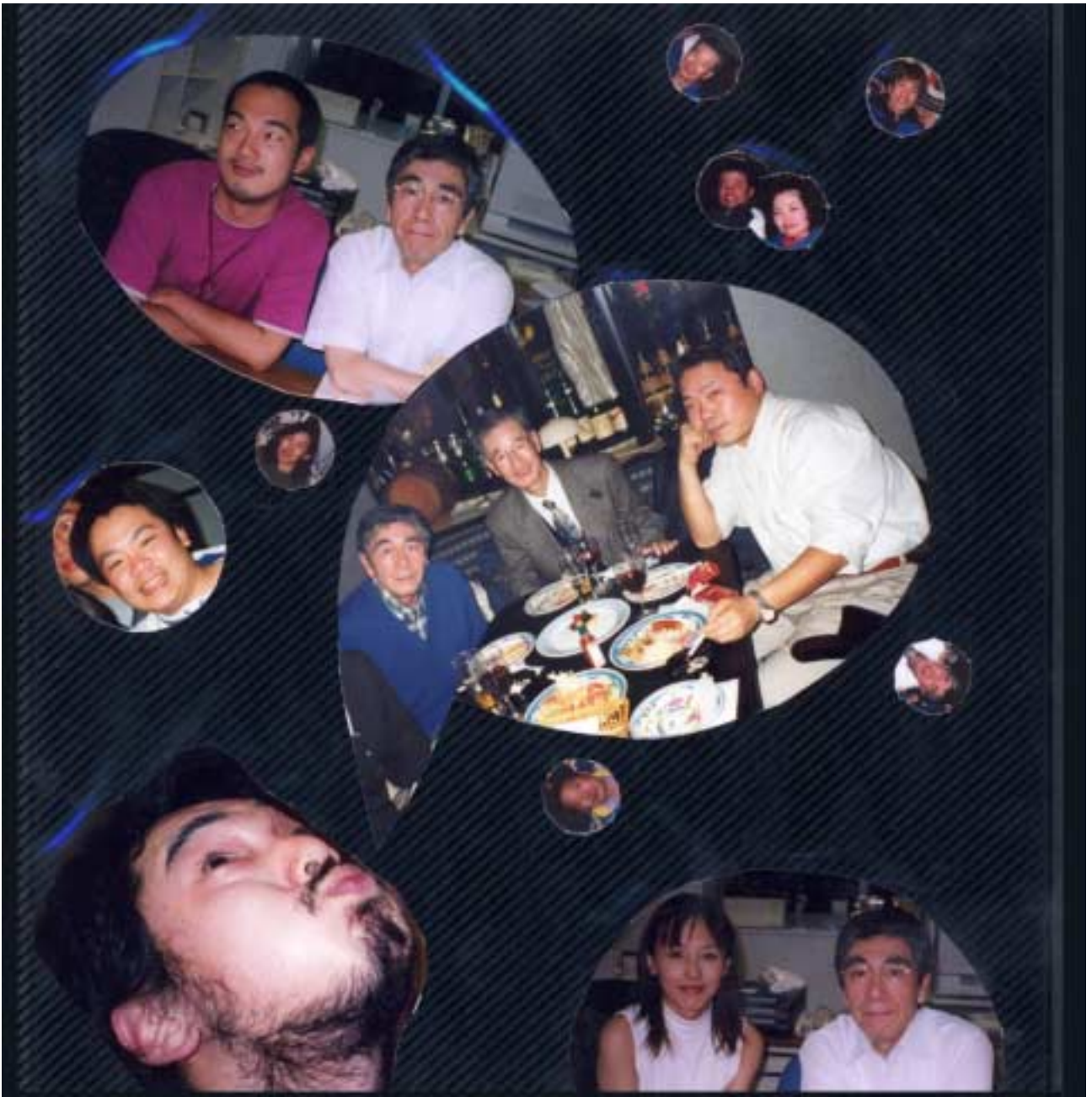
相生 佳織・筒井 真理

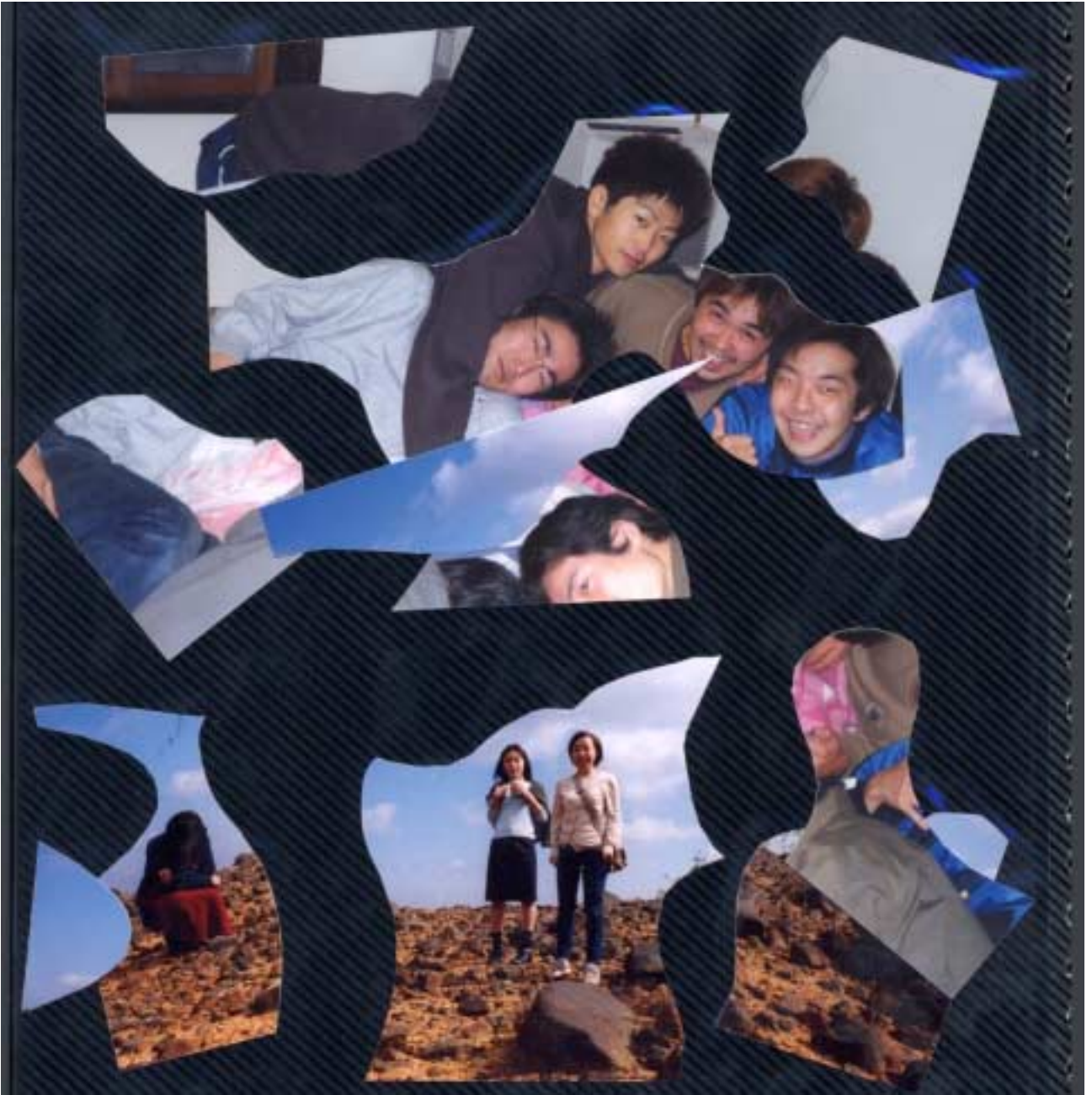
「判別関数法による企業の倒産分析の試み」



あら、かわいい顔や
歳はいくつなの？
ワタシは18歳や























若山ゼミ

絵を描け

若山邦紘